

流体科学研究所 博士前期課程学生海外発表促進プログラム 報告書

報告日：平成 28 年 5 月 26 日

申請者氏名・所属・学年

渡邊知仁・医工学研究科・博士前期課程 1 年

指導教員名

太田信 准教授

国際会議名

10th World Biomaterials Congress

出張先と日程

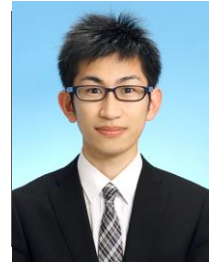
Montreal, Canada, May 17-21, 2016

発表タイトルと著者

“Endothelialization on NiTi wire with immobilization of collagen using HMDI”

Tomohito Watanabe, Hisatoshi Kobayashi, Sho Matsumoto, Xiaobo Han,

Hitomi Anzai, Makoto Ohta



1. 研究発表の内容

近年普及しているステント治療によって生じる再狭窄は、迅速な内皮化によって抑制することができると考えられている。そのため本研究では、ステントワイヤに細胞接着性のある I 型コラーゲンを固定し、流れ付加環境下での内皮細胞への影響を調べた。その結果、コラーゲンの固定化がステントワイヤ上の内皮化を促進する可能性や、ワイヤ形状がせん断応力環境を変化させることでワイヤ周辺の内皮化に影響を与えている可能性が示された。

2. 今回の出張・発表で学んだこと

今回参加した国際会議では材料を専門とする研究者が多く、普段議論される流体とは異なった視点での議論を行うことができた。また、本会議において発表した内容は他の研究者にも興味を持っていただき、セッション後においても意見交換を行うほど反響があった。自身の発表のみならず、他の研究者の発表からも大きな刺激を得ることができた。発表の中には自身の研究に結びつくような研究もあり、今後の研究活動の幅を広げることができると考えている。

発表前まで気がかりであった英語によるディスカッションは、力不足のため十分な議論ができなかった。そのため、今後研鑽を積まなければならないだろう。加えて発表に関しては、海外の研究者の多くが聴衆を向いて発表をしており、衝撃を受けた。日本では発表者もスライドに目を向けがちであるが、説得力が大きく異なるように感じた。研究内容以外にも多くのことを学ぶことができたため、この経験は非常に有意義であったと考えている。

3. 本プログラムへの提案・感想

残念なことに、指導教員から何うまで本プログラムのことは知らなかった。本プログラムは海外での発表を支援するだけでなく、過去の渡航者の学びを共有することができるという意味でも、学生にとって非常に有意義なものであると考える。そのため、本プログラムがより多くの学生に周知されるよう、宣伝に力を入れることを提案する。

4. 指導教員所見

発表は非常に良く練習できており、また内容についても多くの関心を持ってもらったことから、発表は成功であったと言える。今後は聞く能力、その場をリードする能力が

求められる。この能力を身につけるには、5 回程度の国際会議での発表が必要であろうと思う。今後回数を増やすよう努力する。

5. 発表時の写真など

